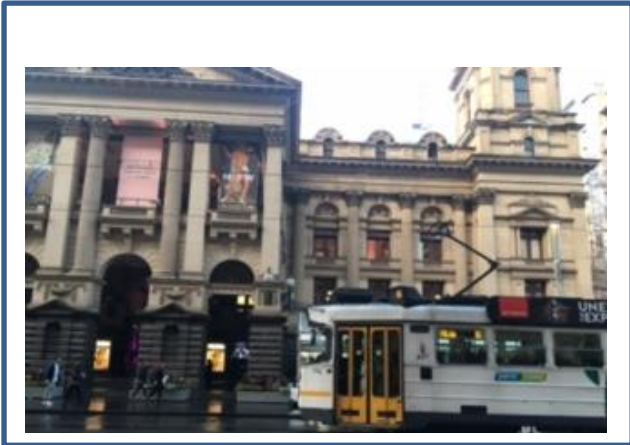


# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) Y.Y  
所属 (School) 地域保健学域  
学年 (Grade) 3年

留学先 (Name of overseas institution)  
Monash College  
留学期間 (study abroad period)  
2017/8/22~2017/9/24  
記入日 (Date) 2017/10/4

## 留学レポート Study Abroad Report

私は夏休み中の1カ月間、オーストラリアのメルボルンにある Monash College の生徒として英語を学んできました。これからモナシュ大学へ留学を考えている方にむけて、メルボルンでの1日の生活、授業について、観光についての3つについてお話ししたいと思います。

まず、メルボルンでの1日を紹介します。大学はたくさんのビルやお店が立ち並ぶ city にあり、電車で40分、家から駅まで、駅から学校までの徒歩を合わせて約一時間かけて通っていました。クラスは午前と午後に分かれていて、私は午前クラスだったので、8時半から12時半まで授業を受けました。お昼ご飯は自分で作ったサンドイッチを食べたり、近くのスーパーでパンやサラダを買ったり、時には友達とお店でランチをしたりしていました。メルボルンの特に city にはいろんな国のレストランがあり、さまざまな料理を食べることができるので、自分の好きな物を選ぶことができるので、毎日お昼ご飯はとても充実していました。授業は午前中のみなので、午後は自由に時間が使えました。メルボルンの至る所にあるオシャレなカフェを巡ったり、美術館や教会、動物園などの有名な観光地をまわったりとメルボルンを満喫することができました。しかし、ほぼ毎日宿題があるので、観光した日は家に帰ってから夜中まで勉強することもしばしばありました。夜ご飯は、毎日ホストマザーが作ってくれました。アジア系の家族だったので、お米や野菜を頻繁に食べることもできたのは、日本人としてすごく助かりました。

通学には時間がかかりましたが、その分現地の社会人や学生の生の会話が聞けたり、イギリス風の建物や近代的なビル、平屋の大きい家、広大な牧場などいろんな景色を見ることができたりと、現地の生活のリアルを一番近くで見ることができる時間で私にとっては毎日の楽しみでした。



次に授業について紹介します。クラスは15人中10人が日本人で残りが中国人でした。私と同様に夏休みを使って来ている日本人が多くみられました。授業ではオンライン上にその日の授業内容と課題が示されており、それに沿って主に Reading, Writing, Listening, Speaking のそれぞれのスキルの上達を目標とした活動を行いました。一番苦労したのは Speaking の時間でした。最後の週にそれぞれのスキルの試験があるのですが、Speaking の内容は Discussion で、与えられたテーマについて3, 4人のグループで

議論するというものでした。自分の意見を適切に英語にすることだけでも難しいのに、それに加え、相手に賛成したり、反論したり、意見を聞き出したりとなかなか日本の学校では触れたことのないフレーズが多くあり、スムーズに議論を進めるのがとても大変でした。自分のスキル不足を痛感したけれど、放課後にメンバーで集まって、何回も練習してもらったことは自分の話す力の向上はもちろん、さまざまな考え方を知る機会にもなりとてもいい経験になりました。全体としては、少人数なので一人ひとりの課題をしっかりと見てもらえること、日本の授業と違って Output の時間が多く、Speaking が鍛えられることが良かったなと思いました。

クラスメイトと先生→



最後に観光についてお話しします。メルボルンの観光地は大学のある city 周辺に多くあり、city を格子状に走っているトラムは無料で利用できるので行きやすく学校の帰りにブラブラ寄り道していました。また街並みがとてもきれいで歴史を感じさせる建物が立ち並んでいて歩いているだけでも楽しかったです。私は食べるのがとても好きで、よくカフェに行ったのですが、冬なのに店前にテラス席があるお店がほとんどで、そこでメルボルンの定番の Flatwhite というカフェラテのようなものを片手におしゃべりしている光景をよく目にしました。店員さんのフレンドリーで、何か注文すると“どこから来たの？ここにきてどのくらいなの？”などと聞いてくれたり、食べ終わった後には“おいしかった？気に入った？”と必ず聞いてくれて、オープンな雰囲気がとてもいい文化だなと思いました。さらに温かいカフェラテを頼んだのに、カップではなく、ガラスのコップで出てきたのには驚きました。オーストラリアでは普通のことと教えてくれました。メルボルンはカフェの街と言われるほど、コーヒーを好む人が多く、朝6時や7時からお店が開き、前を通るととてもいい香りがして素敵な空間でした。

スーパーにもよく行ったのですが、ここでも驚いたことはたくさんありました。まず野菜や果物はすべて量り売りで、日本と比べ体格の大きい国ならではののかなと思いました。また、ディップとチョコレートがこれでもかというほどお店に並んでいました。ディップはパンに塗って食べたりクラッカーに乗せて食べたりするそうです。そのパンも種類は豊富で日本にはない形や触感のものがたくさんありました。パンが主な主食だとこんなにも進化するのだと感心しました。

メルボルンにはいろんな国のレストランがあり、もちろん日本食のレストランも多く見かけました。一番多かったのは寿司屋です。寿司屋といっても日本人が食べているすしは置いておらず、ほとんどが巻きずしで中身が刺身なのはサーモンのみというオーストラリアンスタイルのすしでした。その他は肉が巻かれているものがほとんどでした。現地の人はそれをテイクアウト式で買い、日本人がちょうどコンビニのチキンを食べるような感じで袋に入ったすしを食べていました。列ができていてもよく見かけ、すしが愛されていて嬉しかった反面、日本のすしはこのようなものではないという残念な気持ちにもなりました。

食べ物の話が多くなってしまいましたが、、栄養学を専攻しているものとして、英語の勉強だけではなく食文化も学ぶことができ、充実していた盛りだくさんな1カ月を過ごすことができました。このプログラムに参加したことはこれからの進路を考える上でも、とてもいい経験になりました。留学を考えている方の参考になれば幸いです。

